

八千代▼秋風故郷の山▼中島旭穂。外に剣舞、日舞、浪曲等数番。

薩摩琵琶悠絃会研修会

六月二十二日(日)昼東京中野区大和センター。門琵琶ほか連弾▼茂良、錦幽、錦道▼国船▼伊藤茂良▼異国の丘▼山崎錦幽▼城山▼木村松詠▼山伏接待▼金尾洲文▼新撰組▼中村洲心▼彰義隊▼清水源城▼菊地武時▼大富士岳鮮▼敦盛▼八束一峰▼恩讐の彼方へ▼長谷川錦舟▼夢幻▼島津天嶺▼錦の御旗▼輕部岳瑞▼演奏なし▼北村一城。小宴の後六時散会。

ものがたり琵琶演奏会

七月十二日(土)午後三時東京港区虎の門発明会館ホール、主催物語琵琶雅俊会後援会、後援晴風会ほか(会主杉山旗水氏。有料)。会津の華▼杉山旗水▼巡礼お鶴▼藤原種静・絃錦穂▼名月逢坂山▼鈴木流泉▼湖水乗切▼座間桜水▼村上喜剣▼友吉鶴心▼綱箱▼仲川旭朋、若宮旭登、原島旭粧。絃押田旭窃▼坂崎出羽守▼山下晴楓▼曲垣平九郎▼木原綾子▼修善寺物語(上)▼劇団モハ(三人)▼同(下)▼会主杉山雅俊▼新撰組▼若水桜松▼須磨の敦盛▼都錦穂▼戦艦大和▼中谷裏水。

京都祇園八坂神社献奏琵琶会

七月二十三日(水)午後四時同神社能楽殿、京都琵琶協会協賛。(次号詳報)

京都琵琶協会納涼懇親会

七月二十三日(水)午後八時京都四條大橋角東華菜館鴨川床。(次号詳報)

琵琶ラヂオ放送

七月三日(水)午後三時十分NHK・FM。半田淳子▼本能寺▼田中之雄▼西郷隆盛。

(予告)

- 筑前琵琶演奏会 八月三日(日)午前十一時半京都東山松原上ル安井金比羅会館、矢吹旭美津、菅旭香両女史共催。
- 京都琵琶協会八月定例会 八月十日(日)昼一時平井春嶺会長宅。
- 松井灯水師追悼近県琵琶親善演奏会 九月七日(日)正午秋田市大町三丁目協働社大町ビル、主催一水会秋田支部。(次号詳報)
- 邦楽琵琶まつり木原綾子演奏会 九月二十三日(祭)東京茅場町証券ホール。(次号詳報)

あとも

云うまいと思えど今日の暑さかな、暑い、暑い、ほんとに暑い。七月中旬各地に豪雨を降らせ家屋倒壊や崖崩れなどの被害をもたらせた梅雨

もようやく明けた途端、連日三十二度、三十三度の酷暑が続く。省エネの関係でクーラーも遠慮しながら原稿紙にペンを走らせている内に思わず知らず「暑い」の一言が口から飛び出す。筆者は寒さには自信があるが、この毎日の暑さでは全くやり切れない。しかし夏来たりなば秋遠からじ、あと一ヶ月あまりの辛棒、頑張ろう。●本号には暑中交礼のお申し込みを沢山頂いて紙上を飾ることが出来感謝している。一応到着順に掲載したが万一不備の点があれば御寛容願いたい。●七月十日に締切って十二日に印刷に廻したがその後にお申し込み下さった分は「残暑見舞」として九月号に登載させて頂く、併せて御了承下さい。●琵琶演奏に詩吟を入れるのは気分が違って良いことで、たとえば川中島の「鞭声粛々」や城山の「孤軍奮闘」など、その歌詞自体の内容を一段と盛り立てて効果的である。●その詩の作者の心や詩の内容、字句の説明となると仲々むづかしい。幸い良い参考書が手に入つたので次号からしばらくこの解説を続けてみたいと思っている、釈迦に説法となるかも知れぬが大方の御参考とならば幸甚。

昭和五十五年八月一日発行(非売品) 編集者 植村 冀 水 行所 高槻市津之江北町一ノ三番 電話 〇七二六(七三六)〇五一

琵琶 機関紙

京 絃

第三一四号 京 絃 社

銷 夏 の 辞



主幹 植村 冀 水

三伏の炎暑凌ぎ難いこの頃、京絃御愛読の諸賢皆様、お変わりございませんか。御伺い申し上げます。

現在琵琶演奏家の大部分の方々は、今日まで何十回という毎年の酷暑を克服して、お元気に四絃五絃を奏して居られますこと、誠に目出度い次第で衷心お慶びを申し上げますと存じます。

琵琶楽は、伝統邦楽中最古の音楽で、且つ最高の権威を誇るものであります。この意味に於いて、琵琶人は常に品位を保ち、公開演奏会などでは、聴衆から後ろ指をさされないように心懸けねばならぬと存じます。

先日、琵琶の演奏を聴くのが何よりも好きだという一愛好家から、こんな通信を京絃社に寄せられました。「私は過日の各流派琵琶名流演奏会に入場料を支払い、張り切って聴きに行きました。「名流」と銘打つての会だから、立派な名流揃いの演奏が聴かれると楽しみにしていました。「名流」とは、名人ま

たはそれに近い人の演奏を云うのであって、その日も神に入つた美事を演奏も沢山ありましたが、数人の方のは期待に反して声も節も悪く、絃も冴えず、「名流」とは程遠いものでした。勿論、聴く人それぞれの好みもあって一概には云えませんが、これでは看板に偽りありの誇りも受けなければならぬのではありますまいか……。」

公開演奏会を聴きに来る人の中には、耳の肥えた、いわゆる琵琶人にとってはこわい人も相当居られるので、慎重の上にも慎重を期さねばなりません。序手ながら、一般演奏会に対する感想として、聴客からの二、三の声を挙げてみましょう。

発声法を研究してハッキリと歌って欲しい、そうでなくても琵琶歌の歌詞は現代語でなく文語体で難解な点が多いのに、何を云っているのか解らないでは折角の熱演が死んでしまふ。また、語尾を明瞭に、「何々は」か「何を」かが不明瞭な人がある。

人名、地名などを間違つて唄う人がある。たとえば本能寺の詩吟中「老坂去西」の老の坂は地名であるから「おろさか」ではなく「おろさか」と必ず歌って貰いたす。吉野落などの歌中の「大塔宮」は、「だいののみや」と云う人があるが、これは「おとりのみや」が正しく、奈良県吉野郡に大塔村が史蹟として現存している。

鬼界ヶ島に流された俊寛の「法勝寺執行」は、「ほっしょうじ」が正當な寺名で「ほうしょうじ」ではない。

京絃紙上にもたびたび取り上げて問題になつた石川富士雄先生作「井伊大老」の歌中の「雪深々と降りしきる」の「深々」は、「ふかふか」か「しんしん」かは、下に続く降りしきるの文章を生かすためには「しんしん」と歌うべきで、「ふかふか」と発音する場合は「降りつもる」としなければ文法に背くこととなる。大老の遭難は旧暦の三月三日で、新暦では四月初旬に当たり、桜の咲く頃に雪が深々(ふかふか)と降り積もるとは考えられない。

以上は二、三の例に過ぎず、調べれば外にも間違いが相当あると思えます。公開の会などでは、聴衆に笑われぬよう充分研究を重ねる必要があると考えられます。

酷暑のさ中に堅苦しい活字を並べて失礼致しました。あと一ヶ月ほどで秋を迎えます。暑さに負けず充分御愛下下さい。

### 五絃閑話 (二)

水藤 五郎

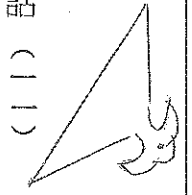
#### 時間のこと

私は、六月十二日NHK・FMで「恵林寺炎上」を放送した。

この曲は演ずるのに三十分を要する関係で、演じ甲斐のある曲でありながら、なかなか演じる機会に恵まれない曲でもあった。その為私も今回が初演で、悪くすると、最後になるかもしれない曲でもある。琵琶演奏時間について云えば、今日の演奏会や放送番組などは、大体、十五分が標準になっている。これは、どの様な経緯でそうなったかは判らないながら、十五分を前後として演ずる習慣、いや約束がいつの間にか出来上がった。

放送に於ては、三十分番組を二人、則ち、十五分ずつに配分して演じさせるのである。演奏会でも、特に、それが多くの出演者のある場合は、殊に、十五分を限度として演じるのが通例である。

放送はともかくとして、琵琶自身に依って企画、運営される演奏会で、十五分を標準時間とするようになったのは何故なのか。その時間の長・短は別として、幾つかの問題は生まれている。



私は「恵林寺炎上」を演ずる機会に恵まなかったと前述したが、我々演奏家にとってある曲を発表出来るかどうか、又、演じるべきか否かは、一見、単純なようで、複雑で、且つ重大なこともある。自分が演奏発表したいと思っても、その曲の内容が、演じる時に所合に合っているかどうか、仮りに、適してはいなくても、反していないことを条件としなければならぬ。その演奏が聴き手に判り感動を少しでも与える状況にあるかを常に認識しなければならぬ。時・所と云うのは、演奏が十五分であることを要求されることも含んでいる。

「恵林寺炎上」は二十八分を要する以上、十五分を前後としての演奏時間の際には、当然ながら内容を編集しなければならぬ。短かくするのである。ただし、十五分に短かく編集した時に、その内容が理解しがたいものになったり、作品に備わった創作性、芸術性等が著しく低くなって、聴き手に感銘を与えたいものにならざることは絶対に許されない。

この制約の下で、十五分への編集行為をするのである。「恵林寺炎上」の場合、これが難しく思われた。二十八分の全演奏が許される時を得ない以上、この曲を演じることを控えざるを得ないのであった。

演奏会でも、内体、自分の持ち時間は二十三分位を限度として、十五、六分が標準である。「曲垣平九郎」「耳なし芳一」「鞍猿」

等々の曲を演じる機会が多いが、これ等の曲は二十五分を全曲として演じている。二十八分となれば、更に長くなり、「恵林寺炎上」の内容が、決して、誰人にも知られていない話でないことも考えると、一分でも抜けないことになり、全く演奏発表の機会に恵まれない経緯を生んだのであった。幸い、今回の放送に三十分の時間を与えられた為、この曲を発表することができた。

だが、現実には、発表しうる喜びと同時に二十八分余の演奏をこなす力があるか否かとの不安が生れた。日頃、十五分の演奏を余儀なくされている我々が、逆に、十五分の演奏力になってしまったのではないかと云う、自問を抱いたのである。

それは、声の点に付いても云えるし、表現力についても云えるのである。十五分と二十八分では、実際、かなりの差がある。放送と云う、編集のできる場合はともかくとして、若し、舞台であったならば、一層声の衰えに注意を要するであろうし、聴き手に「飽き」がこない為に、いろいろな工夫をこらす表現力を身につけなければならぬ。ただ、同じ節調のくり返しては、やはり二十分以上の演奏を考えると、聴き手に飽きるなど云うことが無理なのである。

「石童丸」は全曲で三十分になる曲であるが、今日、それを演奏して、聴き手に飽きることをなく聞かせる力を持つのは難しい。その難しさを避けて、十五分で演じている我々の

### 幻想する

#### 紫式部

辻 旭城



現実には、大きな問題を含んでいる。我々の演奏が十分でも二十分でも、そして三十分でも、聴き手に五分位で、いや、時間のたいくつを抱かせないものとなって、始めて、「琵琶は長いから……」の汚名をそそぐことになるのである。ただ、いたずらに、三十分の曲を十五分に編集して演ずることは危険であろう。「琵琶小曲・琵琶小歌」なる分野がありながら、なかなか成長してゆかないのは何故なのである。若し琵琶と時間が短かきだけに今日、今後の活路であるとするなら、全琵琶人が、この分野に進んでゆくべきであろう。

天曆五年(九四七)の夏、村上天皇の内親王大斎院選子から、藤原道長の娘彰子(一條天皇の中宮上東門院)に、何か珍らしい物語を書くようにと、希望の書面が寄せられた。手紙を手にした彰子は、自分に仕える女房の紫式部に書くように云い、主人の命を受けた式部は、許しを得て江州石山寺に参籠した。僧部の計らいで源氏の間があてがわれた。外陣と内陣の中間にある小部屋で、紫式部が「源氏物語」の構想をねった所である。この部屋には大きな花頭窓があつて、月を眺めながら筆を起したのが、有名な須磨巻の一卷である。

世に出た。この三人の中で清少納言、和泉式部は共に美しく、その生きざまも当代風で、華やいだものであったと伝えられている。紫式部は、一部では道長の妾になっていたという説もあるが、その権勢でさえ如何ともすることが出来なかったというのが、道長との本當の関係であつたらしい。

前述のように、式部と深い由緒がある石山寺には、遺品や書画が数多く寺蔵されている。更に観音堂の一隅には、式部のみやびやかな人形に女房の人形があつた。

よく見ると、この源氏の間(ま)からは、琵琶湖はおるか瀬田川さえ見られないので、石山寺の紫式部が観月に力を得て、源氏物語の起筆の因を得たというのは、単なる造り話ではないのか、とも思われた。

筆をおろして、源氏物語を書いたというところ、観月をバックにする必要はなく、また場所を決めず石山寺に参籠して、起草したと云うことが大切なのではあるまいか。この説話について、修行僧に聞いてみると、紫式部は後世淫奔な女となり、虚言を弄するなど多くの人々の心をまどわすに至った。そのために地獄に落ちたという。

石山寺は、天平時代に聖武天皇の勅願によつて、大和東大寺の良弁僧正が開いた寺で、近江屈指の名刹である。創建に関する奇瑞伝説や、源氏物語にまつわる話で名高く、西国三十三ヶ所第十三番札所として信仰が厚い。

# 暑 中 御 見 舞

<p>〒031 青森県八戸市内九十一番 電話〇一七八(二二)八七七五番</p> <p>穂洲 最上 十太郎</p> <p>正派薩摩琵琶 正調詩吟指南</p>	<p>〒606 京都市左京区岡崎徳成町二五 電話〇七五(七七)四〇一六番</p> <p>荒木 旭 媛</p> <p>筑前琵琶橋会 法香久院</p>	<p>〒606 京都市左京区下鴨蓼倉町一六 電話〇七五(七八)三〇五〇番</p> <p>馬場 鴨 水</p> <p>錦心流琵琶 書道</p>	<p>〒164 東京都中野区本町三ノ二二 新都ハイツ(三七五)一八四七番 電話〇三(三七五)一八四七番</p> <p>仲川 秀 邦 (旭 朋)</p>
---	---	--	---

<p>〒617 向日市西向日鶏冠井町山端二 電話〇七五(九三)一六九一番</p> <p>梅原 旭 濤</p>
--

<p>〒160 東京都新宿区新宿一ノ十四一 地下鉄御苑駅前隣 洲鳳会館23F 電話〇三(三五二)七三六六番</p> <p>大館派琵琶教室 詩吟天溪流宗家</p> <p>洲鳳会 長山 田 洲 鳳</p>
--

<p>一水会神戸支部 詩吟 蓮水会</p> <p>事務所 西宮市羽衣町七ノ三四 三浦蓮水方 電話〇七九(三三)五八八七番</p> <p>顧問 松野 紫雲 支部長 楊浦 蓮水 副支部長 反町 蓮水 理事 川島 蓮水 女流 田川 蓮水 女流 吉川 蓮水 女流 吉田 蓮水 女流 山田 蓮水 女流 村上 蓮水 女流 木村 蓮水 女流 田中 蓮水 女流 高瀬 蓮水 女流 原柳 蓮水</p>
---

# 暑 中 御 見 舞

<p>〒485 浜松市安松町三三ノ四 電話〇五三四(六一)三五五五番</p> <p>たかむら流 柿沢 篁 峰</p> <p>篁流詩吟・琵琶</p>	<p>〒535 大阪市旭区中宮四ノ一二ノ一四 電話〇六(九五)九二九四番</p> <p>塩谷 旭 洲</p> <p>筑前琵琶 大阪中央旭会</p>	<p>〒249 淀子市桜山三ノ四ノ五三 電話〇四六八(七三)一二二〇番</p> <p>平野 鉦 水</p> <p>錦心流琵琶教授 鉦水会</p>	<p>〒671-20 姫路市花田町高木一八ノ四 電話〇七九二(二三)七一九五番</p> <p>北中 旭 蝶</p> <p>大阪中央旭会</p>
---	---	--	---

<p>〒336 浦和市別所四丁目一番十五号 電話〇四八八(六一)八〇一九番</p> <p>花俣 圭 水</p> <p>錦心流琵琶一水会本部副会長 同 埼玉支部顧問</p>
---

<p>〒618 大阪府三島郡島本町桜井四ノ一 電話〇七五(九六一)五〇四三番</p> <p>秋元 旭 晨</p> <p>筑前琵琶日本旭会</p>
--

<p>京都琵琶協会 〒603 京都市北区平野宮西町六四 平井方 電話〇七五(四六一)一四二三番</p> <p>會長 平井 春 嶺 馬場 鴨 水 林田 旭 水 林田 旭 水 戸田 旭 水 楊田 旭 水 田中 旭 水 植村 旭 水 梅原 旭 水 矢吹 旭 水 安住 旭 水 山岡 旭 水 牧野 旭 水 荒木 旭 水 木下 旭 水 桜井 旭 水 水富 旭 水</p>
--

# 暑 中 御 見 舞

<p>〒176 東京都練馬区豊玉北五ノ一一 芸の友社 電話〇三(九九一)〇三六三番</p> <p>鈴木 誉 士</p>	<p>〒569 高槻市南総持寺町 公団住宅三〇ノ二〇四 電話〇七二六(九六)八五二六番</p> <p>吉 井 良 三</p>	<p>〒658 神戸市東灘区御影中町一ノ一 電話〇七八(八五二)二二六三番</p> <p>田 中 敏 水</p> <p>錦心流琵琶一水会 琵琶を樂しむ会</p>	<p>〒790 松山市立花三丁目五ノ六 電話 (四二)三八八七番</p> <p>佐 藤 晃 絃</p> <p>日本琵琶楽協会々員 受媛琵琶連盟顧問</p>
<p>〒662 西宮市松園町十三番二十一号 電話〇七九八(二二)八二〇八番</p> <p>楊 嶽 水</p> <p>琵琶一水会神戸副支部長 琵琶蓮水会理事</p>	<p>〒250-04 神奈川県足柄下郡箱根町強羅 電話〇四六〇(二二)二二二番</p> <p>押 川 旭 葉</p> <p>筑前琵琶橋会</p>		
<p>〒651 神戸市葺合区上筒井五ノ四ノ二 電話〇七八(二二)一一六一番</p> <p>上 原 ま り (旭 艶)</p> <p>宝塚専科</p>	<p>旭会大師範 柴 田 旭 堂</p> <p>筑前琵琶旭堂会</p>		

# 暑 中 御 見 舞

<p>〒120 東京都足立区青井二ノ一四ノ二六 電話〇三(八四〇)三八九二番</p> <p>松 本 諸 水</p> <p>一水会東京城東支部 支部長</p>	<p>〒350 川越市南通町一ノ二ノ一一 電話〇四九二(二二)四四六一番</p> <p>熊 木 鼓 水</p>	<p>〒608 京都市北区上御霊上江町二三二 電話〇七五(四四一)〇六〇九番</p> <p>林 旭 萌</p>	<p>〒359 埼玉県所沢市中新井二ノ二八 電話〇四二九(四三)〇九二八番</p> <p>岡 部 錦 蝶</p> <p>薩摩琵琶錦水会 正絃会・四明会会員</p>
<p>〒570 守口市緑町土居団地十一号 電話〇六(九九二)五六二五番</p> <p>小 川 吟 水</p> <p>小 西 甫 水</p> <p>北 村 玄 水</p> <p>金 寄 靖 水</p> <p>増 田 剛 水</p> <p>関 川 昌 水</p> <p>桜 田 育 子</p> <p>大阪・吟水会</p>	<p>〒601 京都市南区吉祥院中島町三〇 電話〇七五(六九一)〇二二八番</p> <p>田 中 旭 水</p> <p>桜 井 旭 水</p> <p>富 山 旭 水</p> <p>西 村 旭 水</p> <p>一 坊 旭 水</p> <p>外 寺 人 同</p> <p>會長 矢 吹 旭 美 津</p> <p>琵琶三美会</p>		
<p>〒160 東京都新宿区三栄町十六 電話〇三(三五二)四五九一</p> <p>筑前琵琶紅米町十六会</p>	<p>日本旭会</p> <p>範 司</p> <p>押 田 旭 笏</p>		

暑 中 御 見 舞

日本琵琶振興会長  
鈴木流泉  
〒343 越谷市大成町一ノ三三九二(自宅)  
電話〇四八九(八二) 一二四二番代

研究室  
〒111 東京都台東区駒形一ノ一ノ五  
スズセイビル六階  
電話〇三(八四五)二二二番代

吟詠 赤心流  
琵琶 赤心流  
家元  
赤心流鶴翁  
〒420 静岡市西草深町二十一番二十号  
電話〇五四二(五三)一四七一番

薩摩桃山琵琶製頒  
柏木篁道工房  
〒125 東京都葛飾区鎌倉四ノ三九ノ四  
電話〇三(六五八)一九四七番  
(今様丸目藏人氏の御出現待望)

暑 中 御 見 舞

錦堂派  
大井錦淀  
〒369-12 埼玉県大里郡寄居町大字寄居  
電話〇四八五(八一)一七四〇番八

錦心流一水会秋田支部長  
星野 水  
〒011 秋田市土崎港中央四丁目九ノ  
電話〇一八八(五六)三三三二番六

邦楽名絃会  
正派 西郷天風  
琵琶  
〒156 東京都世田谷区経堂三三三三  
電話〇三(四八二)七四八三番六

錦心流琵琶・国風流詩吟教授  
野田 勇次郎  
〒528 近江八幡市正神町一〇  
電話〇七四八三(二二)〇五四番四

高田 栄水  
〒176 東京都練馬区豊玉北四ノ二四  
電話〇六(九九一)七二〇八番

戸倉 旭嶺  
〒520 大津市中央一丁目一番十号  
電話〇七七五(二四)五〇六五番

筑前琵琶橋会宗範  
山崎 旭萃  
大和流琵琶吟家元  
山崎 光椽  
〒569 高槻市宮田町一ノ六ノ五  
電話〇七二六(九三)三一五九番

# 暑 中 御 見 舞

<p>〒189 東京都東村山市美住町一ノ四 久米川公団九ノ二〇四 電話〇四二三(九一)九三二一番</p> <p>師範 若宮 旭登 吟(桂水)</p> <p>旭登会員一同</p> <p>筑前琵琶日本旭会 扶桑流 詩吟 教授</p>	<p>〒420 静岡市丸山町八七 電話〇五四二(四五)九五三六番</p> <p>一水会静岡支部</p> <p>武田 恒水</p>
<p>〒602 京都市上京区東堀川榎木町東 電話〇七五(一一)四〇三三番</p> <p>師範 中島 旭穂 教司 榎田 旭穂 光山 福西 旭穂</p> <p>森田 旭穂 岩井 旭穂 長谷川 旭穂 織田 融光</p> <p>筑前琵琶旭穂会</p>	<p>〒113 東京都文京区根津二ノ一五ノ二 電話 (八二二) 五七〇八番</p> <p>錦・都派琵琶本部</p> <p>家元 都都 錦穂 都都 穂苑 外会員一同</p>
<p>〒544 大阪市生野区小路二ノ二六ノ二五 電話〇六(七五三)〇〇三二五番 (七五三)〇〇六六七番</p> <p>高千穂 旭楓</p>	<p>〒537 大阪市東成区神路三ノ八ノ十八 電話〇六(九八一)二二九一四番 (九七二)二七七八番</p> <p>榊本 旭風</p>

# 暑 中 御 見 舞

<p>〒141 東京都品川区西五反田四ノ八ノ一二 電話〇三(四九一)八三三二番</p> <p>本部</p> <p>支 部 京都・名古屋・湘南・東北</p> <p>前田 秋声</p> <p>琵琶芸術協会代表 四絃富士会 顧問 錦心流琵琶秋声会々々長</p>		<p>〒604 京都市中京区西ノ京西鹿垣町一 電話〇七五(八四二)二九八九番</p> <p>京都琵琶協会 琵琶芸術協会 京都秋声会</p> <p>牧 南水</p>
<p>〒454 名古屋市 中川区 中島新町 中川住宅五ノ四〇一号 電話〇五二(三五三)〇二八四番</p> <p>阿部 秋子</p> <p>琵琶芸術協会名古屋支部 錦心流琵琶秋声会名古屋本部</p>	<p>〒464 名古屋市千種区観月町二ノ三三 電話〇五二(七五一)九三三二番</p> <p>錦心流琵琶秋声会 名古屋中央支部長</p> <p>松浦 秋翠</p>	
<p>〒231 川崎市高津区新作一三六ノ一 電話〇四四(三六六)八九六〇番</p> <p>久保田 秋風</p> <p>錦心流琵琶秋声会 神奈川県支部長</p>	<p>〒467 名古屋市瑞穂区中根町三ノ二七 電話〇五二(八三三)六七一七番</p> <p>長谷川 秋楓</p> <p>錦心流琵琶秋声会 名古屋城東支部長</p>	

# 暑 中 御 見 舞

<p>〒370-12 群馬県高崎市岩鼻町局前二四七 電話〇二七四(四六)二〇〇六番</p> <p>宗家 針谷 錦古</p> <p>全国朗吟文化協会関東副部長 テイチクレコード 専属 群馬琵琶連盟 会長 日本錦古流総本部 会長</p>	<p>〒274 船橋市高根台四丁目十五ノ四 電話〇四七四(六六)七九四〇番</p> <p>錦 秀木 原綾子 外門人一同</p> <p>錦 びわ</p>
<p>〒160 東京都新宿区西新宿六ノ三ア三三 山崎錦幽方 電話〇三(三四二)一〇六〇番</p> <p>普絃会々員一同</p> <p>日本芸術琵琶</p>	<p>〒113 東京都文京区本郷五ノ二二二三号 電話〇三(八一)七五七四番</p> <p>会主 輝 錦 凌 外会員一同</p> <p>錦心流琵琶輝派 輝水会本部</p>
<p>〒156 東京都世田谷区八幡山二ノ一 電話〇三(三二九)三五五〇番</p> <p>会長 大 館 美江子</p> <p>琵琶洲楓会</p>	

# 暑 中 御 見 舞

<p>〒432-31 浜松市積志町一八三一 電話〇五三四(三四)〇八七一番</p> <p>晃陽 小野 鶴彦</p>	<p>〒171 東京都豊島区高松三ノ一二 電話〇三(九五五)三六四五番</p> <p>筑前琵琶 藤 卷 旭 鴻</p>
<p>〒237 横須賀市船越町一ノ五〇 電話 (六一) 三六七六番</p> <p>山 田 幻 水</p> <p>横須賀琵琶連盟 会長 錦心流一水会横須賀支部 長</p>	<p>〒810 福岡市中央区春吉二ノ八ノ二 電話〇九二(七六一)〇三二〇番</p> <p>筑前琵琶嶺派 嶺 旭 蝶 青 山 旭 子</p>
<p>〒878 相生市相生三丁目一四ノ一七 電話〇七九二(二)五一八番</p> <p>浜 本 旭 好</p>	<p>〒658 神戸市長田区梅ヶ香町一ノ一五 電話〇七八(六七)〇〇一八番</p> <p>筑前琵琶日本旭会 田 中 旭 昇</p>

# 暑 中 御 見 舞

京都琵琶協会  
日本琵琶楽協会  
同 関西支部

平井春嶺

〒603 京都市北区平野宮西町六四  
電話〇七五(四六二)一四二三番

錦心流琵琶

一水会京都支部  
会員一同

〒606 京都市左京区下鴨蔭倉町一六  
馬場鴨水方  
電話〇七五(七八一)三〇五〇番

錦琵琶本部

宗家

水藤五郎

まり子

筑前琵琶橋会師範

久徳旭蘭

〒651 神戸市葺合町八幡通四ノ丁一七  
電話〇七八(二二二)一六二〇番

錦心流琵琶

一水会大阪支部  
会員一同

〒531 大阪市淀川区中津三丁目八ノ二五  
木村蓮水方  
電話〇六(三七七)七八一三番

〒176 東京都練馬区旭町三ノ二二ノ四  
電話〇三(九三〇)四四九八番

## 寂光院 春



「平家物語」は語っていた。1清盛には八人の女の子があった。八人が八人とも夫と相睦ぶことを得た。

あとのひとり徳子は十五才で高倉天皇の女御となり、十六才で后となり、二十二才で皇子を生んだ。すなわち清盛の外孫である。この皇子は皇太子に立ち、やがて皇位について安徳天皇とられた。年三つ。これより徳子のことを建礼門院と呼んだ。

壇の浦のいくさで平家の運命がきわまつたとき、「二位尼(清盛の妻)は幼帝を抱いて『波の底にぞ沈み給う』。建礼門院はそのあとにつづきながら死することを得なかつた。

おなじ年の秋、洛北大原の山奥の寂光院という寺にすみかを定めた。

あくれば文治二年(一一八六)の春、後白河法皇は寂光院を訪れて女院をなぐさめられた。

……「頃は卯月二十日余りの事なれば、夏草の茂みが末を別け入らせ給ふに、始めたる御幸なれば、御覧じ別けたる方もなく、人跡絶えたる程も、思し召し知られてあはれなり。西の山の麓に一字の御堂あり、即ち寂光院と

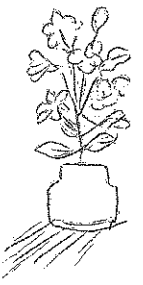
れなり。」

池水にみぎわの桜散り布きて浪の花こそ盛なりけれ(院) 思ひきや深山の奥にすまひして雲居の月をよそに見んとは(女院) ……御念仏の声やうやうよはらせまじければ西に紫雲たなびき、異香空にみち、音楽空に聞ゆ。限りある御事なれば、建久二年(一一九一)きさらぎの中旬に一期ついに終らせ給ひぬ……(女院御往生)

建礼門院の生涯はそのまゝ平氏一門の歴史で、一女人の身をもって諸行無常、盛者必衰のことわりを示された感がある。 寂光院のとなりには建礼門院の大原西陵がある。

寂光院の前を少し川に沿ってのぼり、左手の石段をのぼると樹木の下に小さい五輪石塔がある。これは建礼門院につかえた阿波内侍と大納言佐局のお墓であるという。

(六、三〇) 鴨水記



## 義経と平泉(下)

角田文衛

陸奥守基成は、任期満了後も都に帰還せず、妻子と共に平泉に移ってここを永住の地と定

め、秀衡の政治的最高顧問の位置につき、平泉全般の尊敬を受けていた。基成の弟の権中納言信頼は「平治の乱」をひき起こし、そのため基成の一男の隆実は免官の憂き目を見なければならぬ。この戦乱の累は、平泉に腰をすえていた基成には波及しなかった。

ところで、基成の父忠隆と、常盤御前の夫の大蔵卿長成とは従兄弟同志であった。常盤の切々とした哀願を容れ、長成が遮那王こと義経の処置について基成に依頼したことは容易に察知される。また基成の側にも、義経を受け容れるべき義理があった。なぜならば、

基成の弟の信頼は、「平治の乱」に源頼朝を引き込み、彼を破滅に追いやったからである。義経の平泉下りは、長成と基成との合意のもとに行われたに相違ない。義経が無鉄砲に秀衡を訪れたとは考えられない。つまり義経は、前陸奥守基成を頼りとして平泉に下ったのであり、基成は女婿の秀衡に義経の保護を依頼したと認められる。

平泉において義経は、基成の衣川館に居住していたと認定される。そして彼は、恐らく基成の世話で現地の婦人(泰衡の異母妹か)を妻に迎え、翌安元年ごろには女子を生ませた。後に清和源氏の嫡流たる多田流馬場家の源有綱(檢非違使右衛門尉)の妻となった婦人は、この年に生まれた女児であった。「吾妻鏡」は、有綱は義経の女婿と明記するが、義経の伝記はどれも、平泉で女児を生ませ、後に有綱に嫁がせたことに触れていない。



文治三年の三月ごろ、敗残の義経は、妻(平重頼の娘)、女児一人、少数の郎党と共に平泉に舞い戻り、秀衡や基成に暖かく迎えられ、再び基成の居館に寄寓することとなった。文治三年から五年にかけて義経を追捕しようとする頼朝の策動は狂躁的で全く常道を逸してあり、弟を抱く単なる私的な憎悪によるとは考えられぬものがあつた。実のところ、頼朝は、義経の軍事上の天才に戦りつを覚えていたのである。

当時、盤城の盤城家、常陸北部の佐竹家が反鎌倉的立場をとっていたことは、近年明らかになつてきた。常陸南部には、頼朝に亡ぼされた叔父義弘の残党がいたし、上総には、理不尽にも頼朝に誅殺された上総家の平広常、能常の残存勢力がわたかまっていた。義経が奥州平泉家の大軍を率いて近道をまっしぐらに南下すれば、鎌倉政府は全兵力を挙げて関東東北部や東部で防戦に努めねばならない。その間、作戦の鬼才たる義経が少数精鋭な船団を率い、疾風のように逗子方面に上陸し、鎌倉を急襲することは、聡明な頼朝には眼に見えていた筈である。

秀衡もこの計画を建てていた。基成もこれを秀衡に勧めたらしいが、覇気に欠け、愉安を願う秀衡は、逆に義経を自害に追いやり、進んで破滅の路線を敷いたのであつた。頼朝の奥州征伐に際しては、公卿の出である基成父子は、武器をとることなく生虜となつた。間もなく基成らは釈放されたが、基成

の余生は短かつたらしい。建久六年(一一九五)、頼朝は、秀衡の未亡人の扶養を命じている。彼女は無量光院に止居し、一門の追善に余生を送っていたのであろう。義経の伝記に加えることが出来た新事実は多くはない。しかし平泉下りの事情や平泉に於ける動静は、なほどうか究明されたといえよう。

鬼界ヶ島

志賀 一



平家の崩壊を企画し、事前に発覚して流刑に処せられた法勝寺執行俊寛僧都をはじめ、検非違使平入道康頼、右近衛少将成経の三人の内、康頼、成経は程なく許されたが、俊寛のみは終生この地で辛苦をなめたという鬼界ヶ島とは、どんな所か?

鬼の棲む島として当時極度に恐れられた鬼界ヶ島は、硫黄島というのが本当の名称で、鹿児島に最も近い竹島の隣の島。鹿児島港から南へ、空と海とのさかい約五時間、荒々しい赤茶けた山頂から盛んに噴煙を上げていく小さい島で、平地が少なく、みどりや周りをとり巻くように海岸線にあるだけである。村皆みしま丸(鬼界ヶ島は鹿児島県三島村)

が月八回、鹿児島港から出航する。島の港は長浜港といい、島で唯一つの砂浜で、切り立った崖が海に突き出で、港も海水も赤茶色で物凄しい。島の面積は十二平方キロ、人口約二千、伝統に富んだ島で、噴煙の硫黄岳に登るとその景観は雄大で、眼下の海面は鉄分を含んだ赤と硫黄の黄、そして天然のブルーと色を変え、遠くにトカラの島々が点在する。鬼界ヶ島は活火山島のため温泉は各所に湧出し、海辺では壮大な野天風呂も楽しめる。『琵琶歌』の俊寛遠流ゆかりの熊野神社、俊寛が都を偲んで一日中座っていたという涙石など、『平家物語』にまつわる伝説が豊富に生きているが、中でも壇の浦で二位の尼が『波の底にも都の候ぞ』と抱き上げて入水したという安徳幼帝が、実はここまで落ちのびて、その子孫で島民の姓は殆ど安徳帝ゆかりのものとか。そんな話が『硫黄島』から「鬼界ヶ島」へと変身させ、幻想の物語で人を包んでいる。

吉井良三

大絃を 弾すれば躍 小絃は 哭く如く泌みて 心奪り 嫺々たる鶯語に乗りて大珠小珠 玉盤に落つ 花底滑らに (吉川英治「私本太平記」より)

名人 松田静水師を憶う

兎我野 純



名人の逝去は洵に痛恨の極みである。あの歯切れの良い歌調と比類なき弾法は至芸と申す可きか。さきに不幸にも病に仆れ再起を危ぶまれたが、闘病と精神力に依り遂に立ち直られて、益々芸の深奥を極められ、一水会名誉会長として重責を完うされ、昨秋、畏くも勲五等瑞宝章を拝受、斯界のため慶ばしい限りであった。

師の青春時代を回顧する時、懐かしさが、そしてこよなき敬愛の念が忽然と湧き出る。JOBK、正に半世紀前の頃でもある。大阪三越百貨店内にあつた頃、鉱石の手製受信器で聴いた。その後ラップ型の受信器が出来た。師が放送されるので大阪駅へ出迎えに行つた。列車が駅に着いた。そのとき角帽制服姿で単身下車された眉目秀麗の青年あり、その人が今は亡き名人の颯爽たる若き日の一駒であつた。

爾来、師は楽器を持たずによく来阪された。先生に弾いてもらうことを、こよなく有難く自慢にしていた絃友が多かつた、先生に牙えを取って頂き、名人に弾いてもらうと、素

晴らしい音色が出たからでもある。それも今は昔語りとなり、晩年は名器を持ってきて演奏された。宇治の亀石楼でKと共に一泊した時、弾法を教えて上げようと楽譜をすらすらと書かれ、教示下さつた事が、ついこの間のように思い出される。

因に、JOBKから車が迎えにH師宅へ見えたとき、師は得意の撞球に打興じて居られた。生ま放送であり、H師は気がなかつたと思われたが、時間に間に合い名曲を放送された。(未完)

双鶴流琵琶研修会

六月八日(日)昼京都銀閣寺畔碧光園(会主天津八千代女史)。花の白虎隊一山科荒城の月一和泉鶴咲君の晴着一和泉岩壁の母一上村、坪内一川中島一山科旭和かぐや姫一上村、西村一白虎隊一西村旭栄さくら一和泉旭咲一堅田落一佐藤旭羽一常陸丸一全会員一新撰組一天津八千代(以下来賓)大楠公一作花旭友一本能寺一矢野旭信乃木將軍鹿島詣一石橋旭嶺。外に歌謡曲など数番。このあと京料理を楽しみ六時散会。

四絃富士会琵琶詩吟大会

六月十三日(金)昼横須賀市文化会館ホール(

会主土橋虎水氏)、後援横須賀文化協会ほか。月下の陣一白井一榎狩一宮原一恩誓の彼方一 下村蒼水一戦艦大和一小関香水一木村重成一 大坪碧水一衣川一今井旭柳一城山一藤間博水一 大森彦七盛長一若林旭洋一姫百合の塔一土橋虎水(以下賛助)会津の稚児桜一名古屋松浦秋翠一河川島一横兵采崎統水一小栗栖一 逗子平野鉦水一常陸丸一横須賀山田幻水一八甲田山の露一顧問東京前田秋声。外に詩吟和歌朗詠四題。

日本芸術琵琶普絃会六月例会

六月十五日(日)昼東京文京区大塚の貸席京屋。お江戸日本橋、門琵琶等弾法一錦幽一石童丸一松本露水一同一内田隆章一同一鈴木好水一 秋風故郷の山一丸田、渡辺、絃旭洋一菅公一 日比。絃旗水一吹雪の敵一 日比錦姥一新撰組一伊与田詩水一花の白虎隊、捨児一杉山旗水一俊寛(下)一坂入晴峰一竜の口一金森旭弾一 小曲本能寺一山崎錦幽一横笛一高田栄水一旅の芭蕉一鈴木流泉一由比ヶ浜一若宮旭登。以上研修演奏を終り日比福子さんの茶道お手前の饗応を受け小宴のあと七時散会。

堺大鳥神社夏清祭りに琵琶演奏

六月十五日(日)昼大阪琵琶同好会が協賛。滝口入道一養老駿水一那須与市一矢野旭信一湖水渡り一多和一城山一川村旭幸一吉野山懐古一辻旭城一赤垣源蔵一石橋旭嶺一太楠公一作花旭友一戦艦大和一田中敷水一羅生門一天津